

鼎談

米国における管理医療と高気圧酸素治療の発展

鈴木一雄

Medical Director, Tower Wound Care Center,
Cedars-Sinai Medical Center (Los Angeles CA)

近年の米国の医療システムでは、統計的な治療根拠を基礎としたEvidenced-Based Medicineが推奨されており、医療保険の適応や保険点数も例年の医療研究の文献・結果に左右されている。米国では、UHMS学会が中心になり、学会委員会がHBO治療のエビデンスを積極的に収集・整理し、保険機関や他の学会に高気圧酸素治療の効果と意義を周知するように働きかけている。

日本はHBOクリニックの数でも、米国の750施設に対して715施設と、同等に近い。しかし、保険点数では2カ国の間に大きな違いが見られる。米国Medicareの保険支払いは、2003年にHBO治療エビデンスの質の向上と共に値上げされ、30分の治療ごとに163ドル、2時間の治療では600ドル近くの保険料が支払われる。また、米国では保険適用に対する急性や慢性診断、治療日数制限、一人用や多人数用チェンバーという区分けはない。

米国では、HBO治療を施すことによって、糖尿病足創傷の治療が促進され、下肢切断の防止、治療費削減、患者QOLの向上につながる、というエビデンスが広く認識されている。また、カナダ政府も2007年3月に発表されたCADTHレポートで同様のエビデンスが認識され、HBO治療をできるだけ活用するように、という政府からの推奨がある。

残念ながら、日本でのHBO治療に対する極端に低い保険点数、また1日の治療日ごと、というシステムは、減圧症など数時間の治療が必要な患者に適切な治療を施せないという、エビデンスを無視した歪んだシステムである。日本でも、HBO医師・ナースや技師、チェンバー業者などが団結して、米国UHMS学会のように医師会や厚生労働省、また国民への啓蒙活動が必須であると思われる。

教育講演 1

高気圧酸素治療の医療安全とリスクマネジメント

瀧 健治

佐賀大学医学部救急医学講座教授

高気圧酸素療法 (HBOT) は高濃度の酸素と高い圧力を使用することから、HBOTは異常環境の中で行われる治療法で、非常事態が発生しやすく、一歩間違えば患者が亡くなる危険性がある。治療を開始してしまうと、即座に対応することが極めて困難である。そこで、事故を未然に防ぎ、事故発生時に患者の傷害を最小限に止める対策が大切である。重大な事故を減らすために精緻な治療アルゴリズムを作ったり、ミスが医療事故に発展しない対策としてインシデント報告システムを導入したリスクマネジメントの取り組みが大切である。

I. 医療安全のための予防策:

所持品チェックなどでミスは少ないと言っても、危険性に比べるとミスは零でなければならず、高気圧酸素治療装置などを就業前点検として日常点検と定期点検を多項目 (患者, 装置, 操作者, 治療環境, 治療装置などに関して) について行い、潜在的な危険性を低下させるシステムの構築が大切である。

II. 発生事故への対応策:

装置内や装置外部で発生した事故では、事故に的確に対応できる操作手順の熟知と模擬訓練が効果的な対応策であり、フローチャートを作成しておくことが大切である。定期的な訓練においては、非常事態発生時のフローチャートを見直し、全職員を含めた訓練を行うことが必要で、できるだけ見やすいようにフローチャート図を掲示しておくことよ。

また、合併症が発生した場合には、耳鼻科や呼吸器内科等との連絡体制が必要である。

III. 結語

高気圧酸素治療 (HBOT) を安全に施行するために、インシデント報告を用いて点検表を再検討し、現実に対応できる点検表を作成することが大切である。

作成された緊急事態対応マニュアルやフローチャートを定期訓練で全職員に周知させ、事故時に迅速な行動がとれる訓練を行い、危機管理に努めることが大切である。